

第6学年 国語科学習指導案

国語科研究室

- 1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」
資料「イーハトーヴの夢」

2 指導観

- 本学級の子どもたちの実態

本学級の子どもたちは読書を好み、読書タイムでは自分の読みたい本を家から持ってきている子どもも多い。学級の26%が毎日家でも読書しており、週に1回以上読む子どもも含めると学校の読書タイム以外でも86%が読書していることになる。

さらに、作者宮沢賢治については「知っている」「名前は聞いたことがある」と答えた子どもは96%となり、その知名度の高さが伺える。しかし、実際に作品を読んだ経験があるのは40%である。

これまでに「カレーライス」では登場人物の心情を叙述や表現と関係づけて読み取り、自分の見方や考え方と比べる学習をしてきている。

また、「読むこと」の意識調査からは、以下のような結果が得られた。

- 1 あなたは物語文を読む学習は好きですか。

大すき…13人 すき… 16人 きらい… 5人 大きらい…1人

【大すき・すきと答えた理由】

自分とは違った考え方や生き方を知ることができるから・・・10人

話を読むことが好きだから・・・14人

想像できるから・・・14人

記述欄 (冒頭を読んでこの先どうなるのか考えるのが好き、
主人公と同じ気持ちになってみるとわくわくしておもしろいから、
登場人物や背景を読み取ることが出来るから)

【きらい・大きらいと答えた理由】

難しくて意味が分からないから・・・4人

想像したり出来ないから・・・3人

感動しないから・・・1人

- 2 学習の最後に自分の考えを書きまとめることについて

できる・・・5人

どちらかといえばできる・・・14人

どちらかといえばできない・・・16人

自分だけではできない・・・0人

この調査から、本学級の子どもたちは、83%が物語文の学習を好む傾向にあることが分かる。だが、自分の考えを創り書きまとめる段階になると苦手意識をもっている子どもは多い。その原因として、あらすじを書くだけにとどまってしまうこと、何からどう書いていいのかわからないこと、自分の考えに深まりがないことがあげられる。

そこで本単元では読む目的をもち、自分の考えを創る観点を内容面と方法面から明確にして意識させることで、作者のような人のために尽くす考えにふれた上で自分がこれから大切にしていきたい考えを創り書きまとめることをめざす。

○ 本教材の価値

本教材「やまなし」は、宮沢賢治の代表作の一つであり、比喻表現や擬声語・擬態語など賢治独特の表現が随所に出てくる作品である。子どもたちは表現の工夫や言葉の持つ響きからイメージ豊かに読み味わい、関心をもって読み進めていくものとする。

文章構成としては、前書き一五月の幻灯一十二月の幻灯一後書きとなっている。冒頭からは2枚の幻灯を比べて読めば作者の伝えたいことが分かるのではないかという見通しをもつことができる。そして「一 五月」では、明るい季節でありながら厳しい世界を、「十二月」では、静かな季節の中での平和で幸せな世界を表現しており、それぞれに象徴される「かわせみ」と「やまなし」はカニの目から見て対比できるように描かれている。

また、資料として「イーハトーヴの夢」が本教材の後につけられているが、この資料には広い知識と高い理想をもつ賢治の考え方・生き方について書かれており、他の作品への興味を喚起できるものである。賢治が確固たる自分の理想をもち、人のために、農業のために命をかけて生きたその生き様から考え方・生き方を読み取ることが出来る。「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の物の見方考え方を知った後、「やまなし」を学習することでより賢治の世界に入って読み進め、賢治の伝えたいことを読みとり、自分の考えを創ることができるであろう。

○ 自分の考えを創る指導

6年生の読むことの学習において自分の考えを創るとは、年間を通して考え方や生き方を読んでいくという読む目的をもって作品を読み、その読み取りから自分がこれから大切にしていきたいことについて考えをもつことであるとする。本単元で具体化すると、先に資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者宮沢賢治の人のために尽くす考え方や生き方に着目させた上で、それが作品にどう表れているのか追求するという視点で「やまなし」を読み、自分の考えを創る学習とする。

指導にあたっては、まず、本教材を読む必然性をもたせるために、今までの学習で知った考え方や生き方について振り返る。1学期単元である「カレーライス」ではひろしとお父さんのすれ違いながらもお互いを見直すという人への見方、「森へ」では自然との共存のすばらしさ、「生き物はつながりの中に」では人はいろいろなつながりがあってこそ生きていけることについて考えてきている。教材の読み取りの学習は「情景を読む」「比喻表現を読む」「題名の意図を読む」「場面を比べて読む」といった読み方を活用し、登場人物の心情を表現や叙述と関係づけて読み取ることが出来るようにする。さらに、問題解決型の学習過程をとり、はじめに、題名と冒頭から読み通しのめあてをうみだし、それに対する答えをもったうえで交流させる。叙述をもとに豊かに想像できるという本教材の特性を活かして、簡単な図に表し、めあてに対する答えをまとめさせる。そしてさらに詳しく読んでいくことを三点設定し、本単元で身に付けさせたい読み方を活用しながら読み深めていく。

自分の考えを創る段階では、考えを創る観点に基づき、考え方や生き方について自分の立場と比べたり賢治の他の作品と読み重ねたりして、自分の考えを創らせる。他の作品との共通点や相違点について交流し、賢治の考え方・生き方を導入時よりより確かなものとしてとらえ、自分の日常とつないで身近な生活経験から、賢治が伝えたいことや賢治の生

き方につながることを見つけてこれから自分が大切にしていきたいことについて考えさせたい。

3 単元目標

- 二枚の幻灯を比べながら平和で喜びをもたらす世界を望む作者の考え方や伝えたいことを読み取ることができる。
- 「イーハトーヴの夢」を読んで、宮沢賢治の考え方を読み取ることができる。
- 文章構成の意図をとらえながら、かへの親子やそれを取り巻く周りの様子など、場面についての優れた叙述を味わいながら読むことができる。
 - ・ 比喻表現を読む
 - ・ 場面を比べて読む。
 - ・ 情景を読む。
 - ・ 題名の意図を読む。
 - ・ 文章構成の意図を読む。
- ◎ 読み取った作者の考え方や生き方をもとに身近な人物に関心を広げ、多様な考え方や生き方をとらえ、これからの自分にとって大切にしたい考え方や生き方について10年後の自分へ向けての自分の考えを創ることができる。

4 学習計画 全10時間 (読む…10時間)

次	時	学習活動と内容	教師の支援
一	2	1 これまでの学習を振り返り、本単元学習の構えをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 1年間の学習を貫く考え方や生き方というテーマで本単元の学習を進めることを明確にし、作者の考え方や生き方を知る。 </div> (1) 今まで学習してきた単元を振り返り、人物の「生き方」を読みとり自分の考えを創ろうという構えをもつ。 (2) 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の一生を知る。 (3) 心に残った叙述から賢治の人間像について話し合う。 ○ 自分のことよりも人のためになるように考え、行動すること。 ○ 信念をもって生きること。 ○ 命を大切にすること。 ○ 苦しくてもあきらめずがんばること。	○ 賢治の考え方や生き方を知る目的で読ませる。 ○ 賢治の考え方や生き方が読み取れる「イーハトーヴの夢」の叙述に着目させる。 ・ 苦しい農作業の中に楽しさを見つけ、工夫し、喜びを見つける。 ・ 「稲の心が分かる人間になれ」 ・ 自然に勝つにはみんなで力を合わせなければならない ・ 人間も動物も植物もたがいに心が通い合う世界が賢治の夢 ○ 考え方が明確に表れている賢治の他の作品への興味をもたせる。 「グスコーブドリの伝記」「なめとこ山の熊」「よだかの星」「猫の事務所」「セ

二 1

作品を読み通す課題を生み出す。

1 単元名，題名から考えたことや疑問とつないで冒頭を読み，読み通しのめあてをつくる。

※予想される疑問

- ・どんな考え方が書かれているのかな。
- ・やまなしは話の中でどんな役割をするのかな。
- ・賢治がやまなしを育てる話かな。
- ・二枚だから二つの伝えたいことを比べるのではないかな。



読み通しのめあて

小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯から，賢治は何を伝えたいのだろう。

2 読み通しのめあてをもとに全文を読み通し，読みの答えを考え，話し合う。

○ 賢治の考え方が本教材にどのように表れているのか確かめ，自分の考えを創るために本教材を読んでいくという目的を確認する。

○ 冒頭を詳しく読み，出てきた疑問とつないで読み通しのめあてをつくらせる。

- ・小さな谷川の底・・・人目に付かない所
- ・青い・・・小さな生き物の目線で作った幻灯
- ・二枚・・・比べて見る
- ・幻灯・・・動かない。作者が伝えたい一瞬の映像

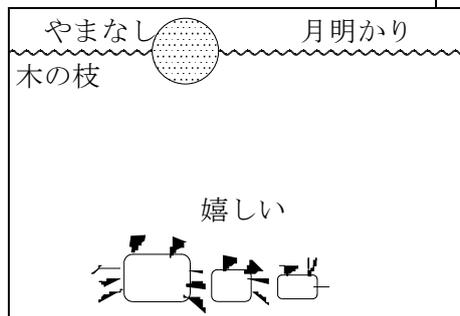
1

五月と十二月の幻灯で象徴されるものを明確にするために共通点・相違点に気を付けながら，叙述にそって図に表す。

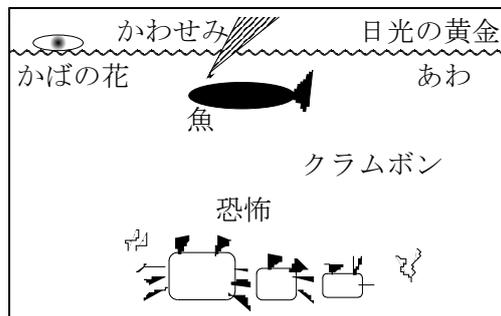
- (1) 全文を読む。
- (2) 二枚の青い幻灯はどんな幻灯か図に表し，共通点と相違点をまとめる。

- 難語句について補足する。
- グループで話し合いながら二枚の幻灯で表しているものの図を描く。

五月



十二月



	五月	十二月
共通点	カニの親子 小さな谷川の底	
相違点	昼	夜

	<p>明るくにぎやか カニの兄弟が幼い 生き物 上からかわせみ</p>	<p>静か カニの兄弟が成長している 生き物が出てこない 上からやまなし</p>
	<p>図から明確になった二枚の幻灯が表すことについて整理し、予見を自分なりにまとめさせる。</p>	
2	<p>(3) 図と根拠となる叙述をもとに予見を書きまとめる。</p>	<p>・ 五月で伝えたいこと、十二月で伝えたいことを整理してから答えを書くようにさせる。</p>
	<p>各自の予見を出し合っているいろいろな読みを知り、これからの学習でどこをどのように読み確かめるのかを明確にする。</p>	
	<p>(4) 各自の予見を出し合い、共通点と相違点を整理する。</p> <p>予見の傾向</p>	<p>○ 作品の特性上、答えは多岐にわたると考えられるので、この段階ではまとめずに読み確かめながら伝えたいことをはっきりさせるようにする。</p>
	<p>A： 明るい季節の五月にも弱肉強食の厳しさがああり、冷たい十二月にもうれしいことがある。 (谷川の様子を比較)</p> <p>B： 谷川の底には恐怖・争いと喜び・平和がある。</p> <p>C： 弱い立場の者の恐怖と喜び・成長 (カニの成長)</p> <p>D： 悪いことをしたらイヤなことがある。 (5月に主眼)</p> <p>E： 新しいものに生まれ変わる命の尊さ (やまなしに主眼)</p>	
	<p>3 予見の話し合いではっきりしなかったことを読み確かめていく計画をたてる。</p> <p>①五月と十二月の谷川の様子の違いを、情景描写から読み確かめる。</p> <p>②かににとって、かわせみとやまなしがどんな存在なのかをかにの様子から読み確かめる。</p> <p>③題名がなぜ「やまなし」なのかを前書きや後書き、作者の考え方から読み確かめる。</p>	<p>○ よく分からないことやもっと知りたいことを出し合って読み確かめていく計画を立てさせる。</p>
1	<p>4 学習計画をもとに二枚の幻灯から作者が伝えたいことを読み確かめる。</p> <p>叙述に沿って二枚の幻灯の共通点・相違点を整理し、それぞれが伝えたい内容を考えさせる。</p>	

	<p>(1) 五月と十二月の谷川の様子の違いを、情景描写から読み確かめる。</p> <p>○五月は明るく生き物が活発に動いているが厳しい世界，十二月は静かで平和な世界を表していること</p> <p>(2) かににとって，かわせみとやまなしがどんな存在なのかをカニの様子から読み確かめる。</p> <p>○「かわせみ」は 恐怖の象徴であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるでざらざらする鉄砲だま ・コンパスのように黒くとがっている <p>○「やまなし」は幸せの象徴であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒い丸い大きなもの ・水の中はいいにおいでいっぱい 	<p>○ 掲示してある「読みアイテム」を振り返り活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日光の黄金」「光のあみ」「ラムネのびんの月光」などの叙述から，それぞれの季の谷川の様子を思い描かせる。 ・かわせみ，やまなしそれぞれに対する叙述の比喩表現を読むことで，象徴しているものを読み取らせる。 ・五月と十二月の場面を比べることで作者の考え方，生き方を読み取らせる。 ・題名の意図を読むことで作者の伝えたいことを読み取らせる。
1	<p>(3) 題名がなぜ「やまなし」なのかを前書きや後書き，作者の考え方から読み確かめる</p> <p>○題名になっている「やまなし」に象徴されるものを作者は望んでいる。</p>	<p>○ 自分の考えを書きまとめる際には，文章構成を助言する。必要に応じて各段落の書き出しを与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「やまなし」で賢治の伝えたかったこと ②根拠となる叙述
三	<p>5 読み取ってきたことをもとに読みのまとめをする。</p> <p>内容面の観点を振り返り，方法面の観点をもとに自分の考えを創る。</p> <p>(1) 「イーハトーヴの夢」で読んだことを振り返り，賢治の考え方・生き方についてまとめ，自分の考えを創る。</p> <p>○オリザの研究をする中で自分を犠牲にして火山を爆発させて雨を降らせ，幸せを与えたグスコーブドリの様子は賢治の生き方に似ていて，かにに喜びを与</p>	<p>○ これまでに自分で読んできた宮沢賢治の作品と比べながら賢治の考え方，生き方の共通点や相違点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グスコーブドリの伝記」とつないで ・「よだかの星」とつないで

	<p>えたやまなしとつながること。</p> <p>○人間以外の生き物の厳しい世界について描く視点や、見かけで値打ちが決まるものではないという考え方が、かにならぬのかかわせみややまなしとつながること。</p> <p>(2) 賢治の考え方と身近な人とつないで自分の考えを創る。</p>	<p>○ 自分の考えを書きまとめる際には、文章構成を助言する。必要に応じて各段落の書き出しを与える。</p> <p>①心に残った賢治の考え方②それにつながる身近な人物③これから自分が大切にしていきたいことの順で書きまとめる。</p>
	<p>学習した読み方を振り返り、読み方のよさを実感させる。</p>	
1	<p>(2) 読み方をまとめる。</p> <p>○比喩表現を読む</p> <p>○場面を比べて読む。</p> <p>○情景を読む。</p> <p>○題名の意図を読む。</p>	<p>※ カード化したものを教室に掲示して今後の学習にも活かせるようにする</p>

5 本時

平成19年9月19日(水) 5校時 (60分授業)

6 本時の目標 (9/10)

- 内容面の観点をもとに創ってきた自分なりの考えを、方法面の観点をつかかって読みのまとめとして書きまとめることができる。
- 「やまなし」と「グスコブドリの伝記」「よだかの星」を重ねて読み、作者がに考え方・生き方について考えることができる。

7 本時指導の考え方

これまでに、子どもたちは「イーハトーヴの夢」から賢治の人物像について自分のことより人のために働く人、夢や希望を持っている人などとおおまかにとらえている。そして「やまなし」の読みとりでは、「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯から、作者は何を伝えたいのだろう。」という読み通しのめあてをもとに、五月と十二月のそれぞれの幻灯があらわすものについての読みとりから、題名が「やまなし」となっていることについて考えてきている。

本時指導にあたっては、まず学習の流れを把握させ、「やまなし」と宮沢賢治の他の作品からわかる考え方や生き方とについて話し合い、自分の考えをまとめるという本時学習のめあてを持たせる。

次に、本単元導入時の「イーハトーヴの夢」での学習から読み続けてきている賢治の他の作品と「やまなし」との共通点について話し合う。ここでは、「グスコブドリの伝記」と「よだかの星」に限定して話し合いを進めていく。物語の展開としての共通性、表現の特色としての共通性の二点に焦点化し、賢治の考え方・生き方を明確にさせていきたい。

そして、初めの「イーハトーヴの夢」で知った賢治の考え方・生き方が他の作品を読む

ことでより確かなものになったことについて自分の考えを創り「生き方」について書きまとめさせる。作品、または賢治の生き方にふれて自分がどう考え、どう生きていこうと思うのかを十年後の自分に宛てるという形で書きまとめさせる。このとき教材に出会う前の自分の認識を想起させることで、学習による自分の見方・考え方の変容に気付くようにする。書かせる際には、自分の考えを創る方法面の観点「①三作品から読み取った賢治の考え方や生き方②身近な人との関わりや経験から考えたこと③寿年後の自分へのメッセージ」を提示し、考えたことを書きまとめられるようにする。書き表すことが難しい子どもたちには、机間巡視の際に声をかけ、教師との対話を通して書き表す中身へのアドバイスや書き出しのきっかけをつくるようにする。

<p>検証の視点</p> <p>○「生き方」を考えるとという内容面の観点、作者の考え方や生き方、他の作品と教材の読みとりとをつなぐという方法面の観点が、自分の考えを創るうえで適切であったか。</p>

8 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時学習を確認してめあてをつかむ。</p> <p>本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>賢治の他の作品から賢治の考え方・生き方について考え、自分の考えをまとめよう。</p> </div>	<p>※ 本時学習の流れを掲示し、学習の見通しを持たせる。</p>
<p>2 「やまなし」と他の作品との共通点・相違点から、賢治の考え方・生き方について話し合う。</p> <p>(1) 「やまなし」と他の作品との共通点と相違点について話し合う。</p> <p>○「グスコブドリの伝記」</p> <p>① 人の役に立つ 最後は死ぬ。</p> <p>② グスコブドリが自らが犠牲となって火山を爆発させにいくこと</p> <p>やまなしは時期が来て落ち、カニのためにお酒になって恵みを与えること</p> <p>○「よだかの星」</p> <p>① 人間とは違う生き物の気持ちを考える。 最後は死ぬ。</p> <p>② 見かけで値打ちが決まるものではないということ</p> <p>(2) 共通点から賢治の考え方・生き方を話し合う。</p>	<p>※ 作品と「やまなし」と比較して共通点・相違点を発言するように助言する。</p> <p>※ 叙述をもとに発言させる。</p> <p>※ 代表児に提案させ、話し合いを進める。</p> <p>※ 物語の展開のさせ方や表現の仕方にも目を向けさせる。</p> <p>○物語の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 死の対比 ・ <p>○表現の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色、比喩 <p>※ 「イーハトーヴの夢」で知った賢治の考え方・生き方を振り返らせ、人物像を</p>

<p>3 自分の考えを創り、書きまとめる。</p> <p>(1) 作品と自分自身をつないで自分の考えを創る。</p> <p>(2) 内容面と方法面の観点を確認する。 書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを「生き方」についてまとめること ・文章構成 <p>自分の考えの例</p>	<p>よりはっきりとさせる。</p> <p>※ 身の回りの賢治のような考えで行動している人、その行動の良さ、自分自身の日頃の行動を想起させる。</p> <p>①三作品から読み取った賢治の考え方や生き方</p> <p>②自分の身近な人との関わりや経験から考えたこと</p> <p>③十年後の自分へメッセージ</p>
<p>前時 <u>作者は</u> 人の役に立つ生き方のすばらしさを伝えたいのだと思う。 <u>そのわけは</u>、5月のかわせみはカニに恐怖を与える存在であり、12月のやまなしは幸せや喜びを与える存在であるが、やまなしが題名になっていることから、やまなしのような存在でありたいと願っていることが分かる。</p> <p>【10年後の私へ】</p> <p>6年生の国語で「作者の考え方・生き方」について考えて自分を振り返る学習をした。</p> <p><u>やまなしが自分の命をもってカニの恵みとなる様子は</u>、「グスコブドリの伝記」の中のグスコブドリが火山を爆発させて雨を降らせるために自らを犠牲にしたところと似ている。そのおかげで雨は降り、作物が育つようになった。それは賢治が自分を犠牲にしても人のためになろうとする生き方に通じるものがある。</p> <p><u>私の周りを見てみると</u>、自分の楽しみを後回しにしてみんなの運動会を盛り上げるために練習していた応援団の〇〇さんを改めてすごいと思った。応援団の人たちは2週間も昼休みを毎日つぶして練習をしていた。そのおかげで競技中や応援合戦で学校全体を盛り上げることが出来た。応援団の人たちは自分のことよりも人のために行動していると思う。私はこれまで、昼休みをつぶしたくないなど自分中心で物事を考えていたので、これからは人のために自分ができることはないか考えて行動できる人になりたいと思った。</p> <p>「やまなし」の学習を通して、学んだことは「人のために」ということだ。人のためにがんばることで相手がよくなり、それを喜べる人でありたいと思う。21歳の私、そんな人になれていますか？</p>	
<p>(3) 発表する。</p> <p>4 次時の見通しを持つ。</p> <p>○読み方のまとめをすること</p>	<p>※ 賢治の生き方や伝えたいこととつないで自分の考えを書き表すように適宜言葉がけをしながら支援する。</p> <p>※ うまく書き表せない子どもたちには、教師との対話から文章化できるように支援する。</p>

「やまなし」で創らせたい自分の考え

◎内容・・・「生き方」

◎方法・・・①「やまなし」で賢治の伝えたかったこと

②根拠

③他の作品に見られた賢治の生き方

④自分の立場から

※ 命について (300字)

作者は、小さな生き物の命について考えてほしいと伝えたいと思う。

そのわけは、魚は生きるためにクラムボンをとり、カワセミは同じく生きるために魚をとるところから考えた。自然には厳しさもあるが、やまなしにお酒をもらうような与えられる喜びもあることを表している。そのことから作者は、自然をありのまま受け入れ、小さな生き物の命について考えてほしいと伝えたいのだと思う。

私は、今まで周りのものと通い合うことなど考えていなかったけれど、生涯をかけて農業の研究をして人間も動物も植物も心が通い合う世界を理想としていた賢治の考えを知って、私も地球上の生き物が共生できる世界になれるよう自分にできることをしたいと思う。

※ 理想の世界について () 字)

カニの親子にとってやまなしは、おいしいもの、豊かでゆったりとした気持ちにさせてくれる幸せの象徴である。幻灯は2枚あるにもかかわらず題名を「やまなし」としたことから賢治は十二月のやまなしがもたらす幸せに満ちたような世界を望んでいることが分かる。

私も、争いのない平和でみんなが豊かな気持ちになれる世界になったらいいと思う。人に幸せを与えられる人になりたいと思う。

※ 人に役立つ生き方について (312字)

作者は、人の役に立つ生き方のすばらしさを伝えたいのだと思う。

そのわけは、5月のかわせみはカニに恐怖を与える存在であり、12月のやまなしは幸せや喜びを与える存在であるが、やまなしが題名になっていることから、やまなしのような存在でありたいと願っていることが分かる。

やまなしが自分の命をもってカニのためになる様子は、「グスコブドリの伝記」の中のグスコブドリが火山を爆発させて雨を降らせるために自らを犠牲にしたというところと似ている。それは賢治が自分を犠牲にしても人のためになろうとする生き方に通じるものがある。

私も自分中心で物事を考えたりするのではなく、人のために自分ができることはないか考えて行動できる人になりたいと思った。

やまなし

宮沢賢治

めあて

「やまなし」と他の作品を重ねて読み、作者が伝えたいことについて自分の考えをまとめよう

なめとこ山の熊

熊

小十郎

死

やまなし

カニ

やまなし

死

グスコブドリの伝記